

科目：キャリア・デザイン

講演：共同通信記者 飯田 裕太 氏

## 「記者の仕事と私の就活」を伺って

2020IB01 稲井 玲音

本日の講義で、「行動しなければ何も生まれない」ということを学びました。とにかく行動に移すことで、自分らしさ（個性）を発見することができ、その経験が自信に繋がると教わりました。飯田さんも、学生の頃に新聞投稿体験をし、興味をもちました。そして、アルバイトや海外旅行など行動範囲を広げ、様々な視点から物事を見るようになりました。その経験が自信となり、記者という進むべき方向を見つけたのです。自分に今何が出来るのかを模索して、本に触れたり、新聞をスクラップしたりして工夫されていました。過去に自分が、何に怒り、何に感動したのかを振り返ることで、自分の興味を探っていたと知って、私も就活に役立てたいと思いました。

私には「自信」が足りないと感じます。飯田さんのように諦めずに、挑戦する姿勢を忘れないようにしたいです。記者の仕事内容を聞くのは初めてで、記事の裏側には、大変な過程があることを知りました。新聞やテレビ、マスメディアを通して、世界の情勢を発信し続けている記者の方々は、辛いことも多く、心が痛むときもあると思います。それでも、現場の声を拾って多くの人に伝えたいという想いで、真剣に向き合っていました。例えば、会社が反対しても、事実を書くべきだという意志や苦勞された人に寄り添う気持ちが素敵だと思います。

当事者だけの意見を記事にすることもありますが、その遺族や関わりのある第三者から得た情報も大事になると知りました。就活も同じだと思います。ひとつのことに集中して固執するよりも、色々な人に話を聞いてみたりして、視野を広く客観的に物事を捉えることが重要だと感じました。そうすることで自分の知らなかった見識が見えてくると考えます。また、記者と会見者は、面接官と受験生との関係に等しいと思いました。記者は、相手の本音や思いを聞き出します。会見者は、その人自身の体験に基づいて自らを語ります。飯田さんの「採用する側も一人の人間だから、自分らしくアピールすれば、誰かが同じ思いで、一緒に働きたいと思うかもしれない。」という言葉が印象的でした。自分らしさを見つけるためにも、積極的に行動していきたいです。

以上